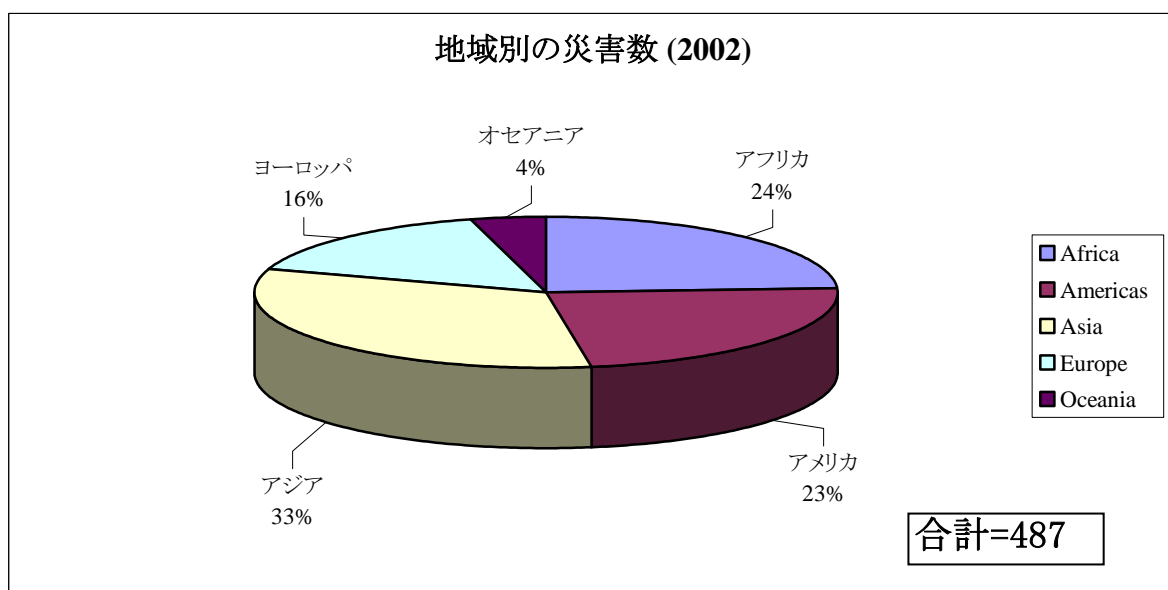


第三章：地域別にみる自然災害の特性

3.1 世界で発生した自然災害の地域別割合

2002年における災害の大多数はアジア地域（33%）で発生し、続いてアフリカ（24%）、アメリカ（23%）、ヨーロッパ（16%）となっている。オセアニアはもっとも少なく、4%となっている。次の図17はこの傾向を表したものである。

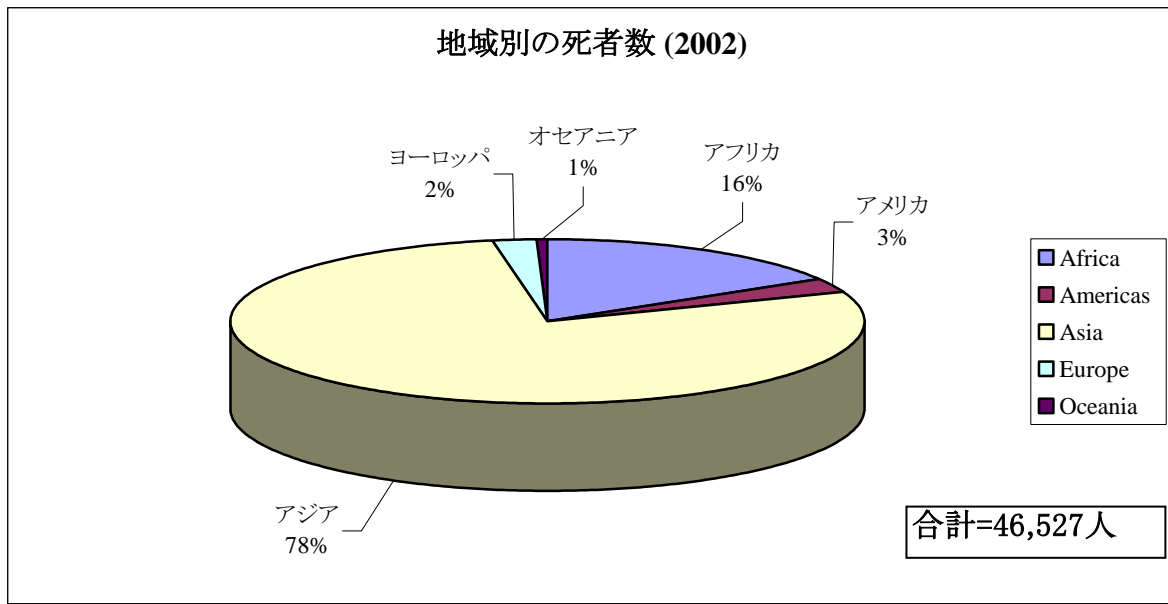
図 17



出典：ADRC（アジア防災センター・日本）、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー）

下の図18によれば、自然災害による世界全体の死者数（2002年）のうち78%をアジア地域が占め、続いて16%のアフリカとなっている。その他の地域ではあまり大きな被害はなかった。

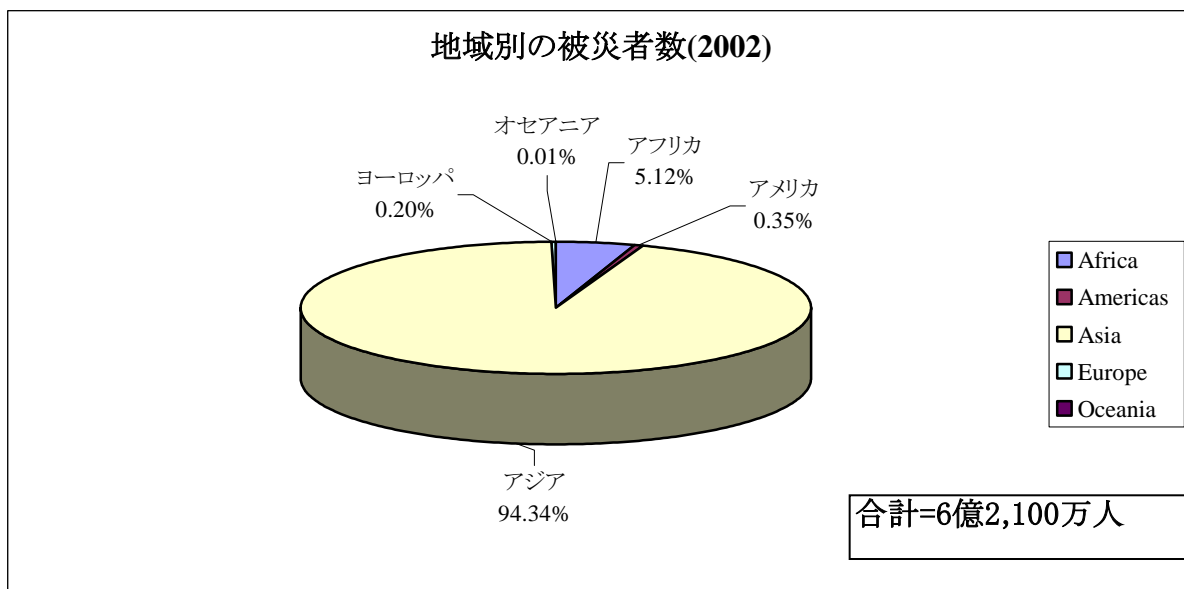
図 18



出典 : ADRC (アジア防災センター・日本)、CRED-EMDAT (ルーベンカトリック大学・ベルギー)

図 19 が再度示すように、アジア地域は自然災害による被災者数全体の約 94%を占めており、世界で最も高い割合となっている。そしてまた、その地域の特徴として災害に対する社会・経済面での脆弱性が鮮明に映し出されている。

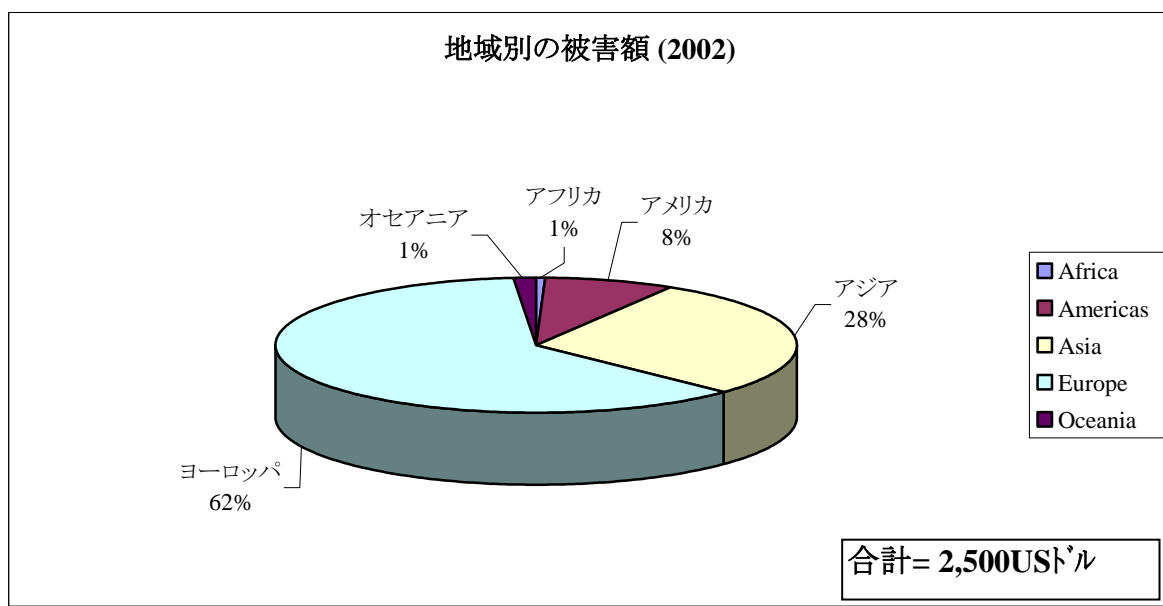
図 19



出典 : ADRC (アジア防災センター・日本)、CRED-EMDAT (ルーベンカトリック大学・ベルギー)

図 20 によると、上記の図とは対照的に、2002 年の自然災害による経済損失のほとんどをヨーロッパが占めている。これは、2002 年にヨーロッパで発生した大洪水とその地域の高い社会・経済的構造が原因であった。続いて、アジアが 28%となっており、その他の地域の被害はあまり目立たない。

図 20



出典：ADRC（アジア防災センター・日本）、CRED-EMDAT（ルーベンカトリック大学・ベルギー）

これまでに見てきたように、アジア地域の災害に対する脆弱さは、地球規模での持続可能な開発や防災計画の実施という点から、無視できない存在となっている。